

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>

全国病児保育
協議会
広報委員会

病児保育協議会ニュース



＝今号の目次＝

1 頁 協議会メール

厚生労働省訪問報告

2 頁 厚生労働省への要望書(全文)

3 頁 加盟施設紹介

慈愛園乳児ホームエーネホーム

瑞江わんぱくクリニック病児保育室わんぱく

こどもサポートH&K

ひなたぼっこ

4 頁 支部便り 愛知県支部から

支部便り 関東ブロックから

5 頁 支部便り 北東北ブロックから

6 頁 TOPICS

第19回病児保育研究大会 in 千葉の御案内

7 頁 全国病児保育協議会新役員一覧

8 頁 病児保育協議会発行の書籍紹介

会員専用掲示板の利用について

全国病児保育協議会新規加入の施設

協議会メール

厚生労働省訪問報告

全国病児保育協議会 副会長 原木 真名

平成20年10月9日、厚生労働省訪問に行きまいりました。協議会側の参加者は、木野会長、稲見、池田、原木の各副会長でした。保育課長の今里譲氏、課長補佐の陞本英俊氏に御挨拶し陞本氏に、実際に話を聴いていただきました。

まず、木野会長が、要望書を課長補佐に手渡し、説明を行ないました。

以下、要望書の概要です。

- ・病児保育施設の赤字体質を改善するため、協力(指導)医師報酬、事務費、設備費、研修費などを考慮した補助金の増額を要望。

- ・新制度による利用定員の設定は、地域の実情を配慮して柔軟に対応できるものとし、定員に応じた補助額を設定していただきたい。

- ・新制度における保護者負担額を、旧制度(ソフト交付金)による概ね2000円/日に減額し、その上で補助金単価設定の見直しをして欲しい。

- ・〈病児・病後児保育事業〉が福祉事業であることを明示し、医療機関における消費税の扱いなど税制面での不公平な取り扱いを具体的に改善していただきたい。

- ・本事業への評価と社会的な理解を進める仕組みを構築していただきたい。

その後、大規模施設に緊急におこなったアンケート結果を提示して、大規模施設が赤字をだしながらも年間1500人以上の子どもを預かっている状況を説明しました。

課長補佐は、終始メモをとり、うなずきながら聴いてくださいました。特に、大規模施設の実情がわかるアンケートの結果は、特に詳細にご覧になりました。

そして、〈かなり苦しい状況の中で、がんばって運営している状況は理解している。今回の制度改革で、全体の病児保育の枠を減らしてしまうような状況になってはいけない。なんとかしなければいけない〉と思っている。来年度には制度改革を考えている。

ぜひ、今後も相談させて欲しい。〈という、大変前向きなコメントをいただきました。

課長補佐としては、病児保育施設は、保育施設の一環として、子どもの育ちの中で必要なところととらえている、就労支援のための必要悪とは考えていないとのこと

でした。

そのためには、普段子どもが通っている保育所との連携なども大切だし、また、病児保育室保育士の、保育研修なども必要だろう、とおっしゃっていました。

病児保育施設を福祉事業であるとし、認可外保育施設としてみると、保育課の監査もはいることになるとのことでしたが、こちらとしては、監査はいつでも受ける体制にある、どんどん監査して実情をわかって欲しいことをお伝えしました。

今年の三重での全国大会での厚生労働省の行政説明は、現場の状況に理解のないものとして、かなり議論を呼びました。しかし、今回の課長補佐との面談では、病児保育施設の実情を理解し、支えていかなければ、というような姿勢を感じました。各地の行政から、今回の制度再編について、多くの要望書が出されており、保育課としても、要望に応えていくことが必要と理解されたのかもしれない。来年度の制度改革がどのようなものになるか、病児保育協議会として、今後も動向をみまもっていかねければなりません。

厚生労働大臣
舩添 要一 殿

平成20年10月9日
全国病児保育協議会会長
木野 稔

病児・病後児保育制度の発展に向けて、日頃からご理解を賜り感謝申し上げます。

旧来の「乳幼児健康支援一時預かり事業」から、今般の「病児・病後児保育制度」への再編に関連いたしまして、来年度の予算編成にあたり以下の点についてご配慮いただきたく要望いたします。

要 望 書

1) 病児保育事業の赤字体質を改善するため、協力(指導)医師報酬、事務費、設備費、研修費などを考慮した補助金の増額を要望します。

病児対応型では、疾患の流行状況や隔離への配慮、予約キャンセルなど利用者数の変動が大きく、職員配置など不安定になる要因が大きいのが実情です。病後児対応型(体調不良児対応型においても)では、安全性確保の点から協力医や指導医への報酬が必須です。新制度における病児対応型では医師報酬が積算されているということですが、病後児対応型においても、指導医との連携が必須であり、手当てを支給して契約関係のもとに協力を依頼すべきものと考えます。利用児の入室から退室までの事務作業の煩雑さ、最低限の設備保守および職員の研修に関わる費用等を考えると現在の補助金では到底健全な経営を行うことはできません。

2) 新制度による利用定員の設定は、地域の実情を配慮して柔軟に対応できるものとし、定員に応じた補助額を設定していただきたい。

新制度では定員4名(概ね6名まで)として、看護師1名、保育士2名の配置基準となっています。しかしながら、定員4名を超える定員規模に応じた補助金単価が設定されておらず(事業として想定されておらず)、これまで正式な委託事業として活動してきた大規模施設は継続ができなくなっている状況です。現在、大規模施設の多くは地域でセンター的役割を果たしており、施設規模および利用実数に応じた補助金を受けなければ人件費だけでも赤字が膨らむ一方です。協議会では、定員の大きい施設ほど、良質で安全な保育看護を提供していると確認しています。大規模施設は切り捨てという新制度は、これまで長年積み上げてきた各地域における実績を無視した極めて遺憾な暴挙であると指摘せざるを得ません。

3) 新制度における保護者負担金を、旧制度(ソフト交付金)による概ね2,000円/日に減額し、その上で補助金単価設定の見直しをしていただきたい。

保護者負担額の設定は基本的には市町村にゆだねられているとはいえ、旧制度では概ね2,000円/日を前提とした固定補助額となっていました。新制度においては、事業費の2分の1相当を保護者負担としており、すでに保育料を支払っている利用者にとっては、過重な利用料負担となり、利用の抑制が懸念されています。

利用者の大幅な負担増を前提とした補助金単価の設定は、固定補助額の減額を意味しています。つまり、小児疾患の季節的変動を受けて冬季は満床、夏季には空床が多く、年間の平均稼働率は40~60%である実態を考慮しますと、利用施設側としては、旧制度以上の経営悪化となり、事業の安定的な運営は全く困難となります。このように、新制度による利用者負担増、補助金単価の切り下げは、病児・病後児制度そのものが崩壊するリスクが大きいことを指摘せねばなりません。

4) 「病児・病後児保育事業」が福祉事業であることを明示し、医療機関における消費税の扱いなど税制面での不公平な取り扱いを具体的に改善していただきたい。

乳幼児健康支援一時預かり事業は、児童福祉法第21条の9に定める子育て支援事業であると位置づけられています。しかし、病児保育を行う医療機関の場合は、子育て支援事業の実施機関であるが、社会福祉法第2条第3号に定める社会福祉事業ではないとの理由から、委託金・利用料に対して消費税が課税されています。事業本体が赤字であり、さらにその上税金を課されて経営を圧迫しています。利用ニーズと実績が高く、病児保育の質を担保できる医療機関併設型が増えない最大の理由であると考えます。「病児・病後児保育事業」の事業所が、国による福祉事業の担い手であることを明示されることによって、医療機関(病院・診療所)併設施設の場合、税法上の配慮が可能となります。

5) 本事業への評価と社会的な理解を進める仕組みを構築していただきたい。

全国病児保育協議会は、病児・病後児保育が国の施策として取り上げられた当初から、従事スタッフの研修や施設長の研修を重ね、実施施設の自己評価基準を作成するなど、病児・病後児保育の専門性向上、利用者への「安心・安全」を保障すべく努力を重ねてまいりました。また、毎年開催される研究大会には、厚労省(これまでは母子保健課課長、本年は保育課課長補佐)から行政報告をいただく等、連携を密接にしてまいりました。それだけに、今般の「病児・病後児保育制度」への再編については、一民間団体とはいえ「病児・病後児保育」に長年関わる唯一の専門団体である本協議会と、事前に何らかの協議の機会を持てなかったことを大変に残念に思います。今後とも、保育課との連携を密接にしつつ、男女共働社会、そして少子化社会における「こども子育て応援プラン」の真意を損なうことなく、本制度の拡充、発展に向けて、本協議会としても努力を重ねていく所存であります。

★ ★ 加 盟 施 設 紹 介 ★ ★

慈愛園乳児ホーム

エーネホーム

「エーネホーム」は平成11年5月1日より熊本市からの委託を受け開設いたしました。

乳児院併設型で、乳児院と少し離れた場所に保育室があります。定員は6名で保育室は3室あり、疾患に応じて個別に対応しています。

自分の家でもなく、いつも通っている園でもなく、突然エーネホームに連れてこられ、一日中泣き続ける子どももいれば、すっかり顔なじみになり、保護者のお迎が来ても「帰りたくない」とタダをこねる子どももいます。暖かな環境の中で病気の子どもたちが安心して休め、楽しく過ごすことができるように、子どもたちの思いや個性も尊重しながら、

保育士と看護師、栄養士などのスタッフがそれぞれの専門性を生かしつつ協力してお預かりしています。

これからも、子どもたちが、少しでも苦痛が軽減し、楽しい時を過ごすことができるように、また保護者の方も安心して利用できる場所でありますようにスタッフ一同願い日々努力していきたくと思っています。

保育士 福島 奈津美
所在地：862-0954
熊本県熊本市神水 1-14-1
TEL：096-383-7553



瑞江わんぱくクリニック

病児保育室わんぱく

わんぱく病児保育室は、平成17年10月に江戸川区で最初の医療機関併設型の病児保育室として開設しました。

保育士は常時2名から3名おり、医師・看護師の適切な対応により子どもが安心して穏やかに過ごせるように心がけています。

病状に応じて吸入・吸引などの処置や、隣接する耳鼻科への受診も保育中に行うこともあります。忙しいお母様から大変喜ばれています。

平成19年には系列のクリニックで2ヶ所目病児保育室を開設し、両方の保育室を利用して頂いている方も増えてきました。定員は両保育室とも4名ですが、徐々に増やしていき

いと考えております。子どもたちの笑顔、成長した姿を見たり、保護者の方の感謝の言葉にうれしい気持ちで一杯になります。

これからも、皆様に安心してご利用いただける病児保育室として、スタッフ一同努力していきたく思います。

保育士 鈴木 美紀
齊藤 智子

所在地：133-0065
東京都江戸川区南篠崎町
3-1-2 渡辺ビル 1F
TEL：03-3698-6531



こどもサポートH&K

病児保育室として平成15年4月に開室した補助金を受けていない単独型施設です。名のとおり、子どもの心に寄り添った保育と看護を目指しています。常勤看護師、保育士各1名、非常勤保育士3名で運営しており、診察は必要時お向かいの小児科医にお願いしています。

特徴は会員制で、年会費30,000円、利用料金1時間1,000円、延長1時間1,400円と少し高めですが、予約なしでも当日利用出来ること、保育園にも保護者の代わりにお迎えに行ってもらえること、早朝7時半から夜7時まで預かってもらえること等、専門職の親にとっては、利用しやすいと大変喜ばれてい

ます。現在の会員数は105名、一日の平均利用者数は2.4名というところでは、保護者から、「今日はしんどいので、ここへ行きたいと子どもが言いますので」等と言われると嬉しくなっています。

看護師 大石 仁美
所在地：603-8137
京都府京都市北区
鞍馬口町 311-6
TEL：075-212-0316



ひなたぼっこ

「ひなたぼっこ」は平成20年4月に開設されたばかりの施設です。

病児保育室、認可外保育園、ベビーシッターサービスを提供しています。

補助金の交付を受けていないこともあり、なかなか利用数が伸びない状況ですが、保護者の方が安心してお子さんを預けることができる、またお子さんは安全に、リラックスして過ごすことができます。施設を目指してい

ます。「ひなたぼっこ」の定員は4名で、常勤の看護師が1名と登録保育士2名で対応してい

ます。看護師による看護、保育士による保育のどちらも欠けることなく、協力して子ども達一人一人と向き合っています。

看護師 常丸 香織
所在地：080-0045
北海道帯広市西15条
北4-2-7
TEL：0155-41-0661



東 西 南 北 支 部 便 り

愛知県支部から

第3回愛知県支部交流会の報告

みなみ子ども診療所病児保育室「にこにこ」 加藤 敦子

平成20年6月14日(土)、名古屋のみなみ子ども診療所病児保育室「にこにこ」で、第3回愛知ブロック交流会を開催しました。12施設で医師2名、事務長1名、保育士看護師で41名、計44名の参加でした。

全体会では、コスモスクリニックの前田医師より「病児保育事業の再編について」報告されました。母子保健課から保育課に管轄が移ることになった事、予算が増えるように思うが、実際は利用者負担が増すかもしれないとのことで、今後も病児保育の充実のために学習・実践・活動しなければと思



ました。

その後、2つの分科会に別れて意見交流会を行ないました。

1つ目は「感染防止について」です。

各施設おもちゃの消毒や掃除の仕方・布団・シーツの洗濯・食器の消毒等についてそれぞれ報告しました。「殺菌ロッカー」があり、おもちゃ類はそれに入れて殺菌する施設もありました。「空気清浄機」や「室内空気殺菌機」があり、感染症児が入る部屋に移動し使用する施設もありました。

床についても、床暖房や水拭きができるホットカーペットの紹介の話も出ました。おもちゃはなめる物はその子ども専用にする、手洗いが難しい時は、ヒビソフトを各自ポケットに入れ仕事する施設もあり、各施設感染を防ぐような細かい配慮を感じました。

児の隔離方法についても意見交換しましたが、それぞれ医師の指示により隔離の基準が違い、また新しい情報も聞け勉強になりまし

た。

2つ目は「食事・おやつについて」です。

食事については施設ごとに違い、病院の給食利用・注文の弁当・キッチンを利用し作る・お弁当持参等様々でした。症状に合わせて、おかゆやうどんなどを選択できる場所も多く、症状に合わない弁当の場合は親への指導や許可をとるなどの配慮をしていました。水分補給については、様々な物を用意する(麦茶・アクアエリラス・ソリタ・さゆ)、スプーン・マグ・ストロー・コップなどためず、見た目を楽しい雰囲気にするなど工夫が出されました。また食中毒の時期なので、注意したほうがいい事などの確認しました。

その後、全体会で各分科会の報告を行い、次回の開催についての提案をしてから、松川医師が終わりのあいさつをしました。終了後「にこにこ」の施設見学もし、2時間と短い時間でしたが、熱心な参加者による意見交流会になり、自分の施設で取り入れ工夫できる場所がたくさんある会となりました。今後は「困っている事・悩み」など出し合い、もう少し深く話せる代表者会議などももてるといいと思います。

関東ブロックから

第7回関東ブロック大会

ぼけっと病児保育室 島村 恵美子

第7回全国病児保育協議会関東ブロック大会を、2008年9月23日、立川アイムにて開催させていただきました。西東京が主催ということで、当ぼけっと病児保育室が実行委員長を務めさせてもらい、近隣の施設とも連絡を取り合い、7か月に及び準備を重ね、当日を迎えることが出来ました。

大会のテーマは「スキルアップをはかろう」とし、より实际的ですぐに現場で役立つ事を目標に、入職後間もない方、中堅、リー

ダーの方々それぞれが参加しやすいようにプログラムを組んでみました。東京の西端の開催にも関わらず、199名の方が参加してくださいました。

午前中は講習会をベーシックとアドバンスに分け、ベーシック講習は入職2年以下の方を対象として、看護師の立場から「病児保育室における感染予防対策」をテーマに、また保育士の立場から「日々の保育看護について」をテーマとしました。個々に抱えている身近

な問題点が話され、日々の不安や悩みが解消されたという意見を頂きました。

アドバンス講習は、「こどもの発達の見方、気づき方」、「経験を積んで出てきた悩みを相談してみませんか」の2つをテーマとしました。「こどもの発達の見方、気づき方」の講習では、前半は保育所のひとりの乳児に関わるふたりの保育者の映像から「こどもの見



東 西 南 北 支 部 便 り

方・気づき方」を考えるものでした。

後半は乳幼児健診を中心とした具体的な月年齢のこどもの発達の姿と発達の道筋についてのお話でした。保育士の実際の関わりが映像に映し出されたことで、今までの自分の関わりを振り返った方が多く、この講習で何が大切か気づくことが出来て良かったという意見を頂きました。

「経験を積んで出てきた悩みを相談してみませんか」は、施設長ではない実務管理者を対象としました。事前アンケートをもとに、年上の経験のない方へのアドバイスの仕方について・保育士と看護師の意見の違い・保育はどこまでやったらいいの?・シフトの問題と4つの項目で話し合いました。保育の質が低下しないようにするには?1対1の保育の難しさなど管理者ならではの話し合いが活発に行われました。救急講習も設け、参加者1人1人が人形に触れ、心肺蘇生の手順を学び、AEDの使用も習得しました。

分科会は、「病後児保育」「病児

保育のこれから」とし、「病後児保育」においては事前にとったアンケートも元に、意見交換を行いました。活発な意見が出る中、保育所併設型病後児保育室は他施設とのつながりが薄く、思い悩んでいる様子があり、この分科会を機にメーリングリストを作成し、情報交換をすることが決まりました。

「病児保育のこれから」は、病児保育の再編と問題点をテーマにし、国の動きを話してもらいました。後半は、新制度に対する東京都、神奈川県、千葉県の対応を報告してもらいました。

午後は午前と同じく救急講習を設けたほか、分科会として「補助金のゆくえ」「感染症 ケアと治療を中心に」「手作りおもちゃで遊ぼう」を設けました。「補助金のゆくえ」では行政側からとして東京都の方に東京都独自の補助金制度について話してもらいました。後半は事前に集計したアンケート結果より出された問題点を、病児保育の共有の問題点として各自自治体の交渉資料として活用していきたいと提案されました。

感染症の分科会はやはり事前にアンケート調査が行われました。感染経路の種類、予防法、治療法の話のあとに、症状別のケア、質疑応答があり溶連菌やマイコプラズマは再感染するのか?という病児に対する質問から、実際に保育していて悩む、インフルエンザ



A型とB型は同室でいいか?などの質問が出ました。

手作りおもちゃであそぼう!は、成育医療センターのおもちゃライブラリーの方を招き、すぐに役立つ手作りおもちゃを作った後、おもちゃライブラリーで売っているおもちゃの販売もありました。身近な材料で手軽にでき、子どもが喜びそうなものばかりで、すぐに子どもたちに見せてあげたいという声が多かったです。

関東ブロック大会は、年々規模が大きくなり、開催する施設の負担が大きくなり、開催が難しくなっています。来年は全国大会が千葉で、再来年は東京で開催されるため、関東ブロック大会は、来年は開催されません。全国大会に参加できないけれど、近隣なら是非参加して、勉強したいという病児保育スタッフのために、開催する側も、参加する側も両方が実現しやすい方向の検討を施設長の方々に前向きに検討していただきたいと願っています。



北東北ブロックから 第6回北東北病児保育室交流会の報告 病児保育室ままぼけっと 金濱 誠己

平成20年10月5日、盛岡市のプラザおでっ(盛岡市観光文化交流センター)において、第6回北東北病児保育室交流会が開かれました。青森、秋田、岩手の三県から70名近い参加者が集い、様々な方面から研修や情報交換を行いました。

今回は、会員外の体調不良児対

応型(自園型)施設の関係者にも参加を呼び掛けたところ、10名の方の参加をいただきました。

前日には25名ほどの参加で懇親会も行われましたが、ざっくばらんな雰囲気の中で、交流会とはまた違った意味で、大切な情報交換の場となり、お互いが同じ様な悩みや課題を抱えながら、日々奮

闘している仲間であることに心強さを覚えました。

当日はまず最初に、岩手県と盛岡市の病児保育行政の担当者から今年度からの新しい制度の説明を含め、現在の病児・病後児保育の概要や状況について説明をしていただきました。30分程しか時間が取れませんでした。新しい制度については十分に周知されていない点も多く、体調不良児対応型施設の関係者からは、ようやく今回の制度改革の内容がわかったなどの感想が寄せられました。

次に、吉村小児科の内海裕美先生から「メディア漬けから子ども

もを救おう～大人のなすべきこと～」と題して講演をいただきました。

安易にビデオやテレビに子守をさせるように、子ども達をメディア漬けにしてしまうことの怖さは、想像をはるかに超えるものであること、親子のコミュニケーションの大切さ、そこに絵本が大きな役目を果たすことなどを再認識させられ、時間があっという間に過ぎました。参加者からは「もっと話を聞きたかった。」「職場に戻ったら早速職員で共通理解を図り、ノーテレビデー等を実践していきたい。」等の声が多く聞かれました。

昼食をはさみ、午後には基礎研修と分科会を行いました。基礎研修では、弘前市ことりの森の赤平幸子看護師より「事例で学ぶ基礎看護」と題して、7月の全国病児保育研究大会での講演内容を中心

にお話をいただきました。そこから、感染予防に大切なこと、嘔吐・下痢の観察ポイントや、脱水予防と重症化予防のために経口補水療法が有効であることなどを学びました。特に、医療機関併設型ではない施設からは、大変参考になったとの声が聞かれ、他の症状についても学ぶ機会がほしいという要望もありました。

最後に二つの分科会に分かれて、それぞれのテーマに沿った「なんでも相談」の形で情報交換会を行いました。

分科会1では、「利用者の管理について」というテーマで、予約やキャンセルの方法、設けているルール等について話し合いました。多くの施設が、予約の管理方法や無断キャンセルへの対応、預かり状況による職員の対応や配置等で苦勞をしている様子が伺われました。

分科会2では、「保育看護の実際と保育の工夫」というテーマで保育看護全般についての情報交換がなされました。特に体調不良児対応型施設からは、病気に関する対処方法や与薬方法等での悩みが多く出されましたが、医療機関併設型のスタッフから助言をもらい、今後の対応に大いに役立ったようです。

最後に、会員施設のみで総会が開かれ、会計報告や来年度の交流会についての話し合いが行われました。今後の活動をより充実したものにするために、新たに会則や世話人を作って活動をしていくことが事務局から提案され、満場一致で承認されました。

また、来年度の交流会は、弘前市のことりの森が運営することを確認し、弘前での再会を約束して終了となりました。

TOPICS 「認定証」今年も24名の方が取得

第18回全国病児保育研究大会時に受付しました研修会5回修了者は、今回新たに24名の方が取得されました。これで合計58名の方が取得されたこととなります。

病児保育を取り巻く環境は、行政の方針との兼ね合いで、日々変化しています。今年度より厚生労働省の管轄担当課も従来の母子保健課から保育課に変

わりました。少子化対策として病児保育は、ますます重要度を増してきています。

「日々無事に過ごして当たり前」のこととして今後も研鑽を積んで頂きたいと思っております。次回の千葉大会では、もっと多くの方が認定証を取得して頂ければと思っています。また、平成22年には20周年記念大会も予定されています。これからも病児保育を担うエキスパートの方がもっと多くなればと思っています。

第19回病児保育研究大会 in 千葉の御案内

テーマ 連携の中から明日が見える -安全で安心の病児保育を育てよう-

日時 平成21年7月25日(土)・26日(日)

場所 OVTA 海外職業訓練協会(千葉市美浜区日比野1-1)

<JR京葉線 海浜幕張駅より徒歩8分 東京駅より快速で30分>

プログラム

主な講演

「絵本の中の子どもたち」

内海裕美先生(吉村小児科)

「カムジー先生のすくすく子育て」

加村柁弦先生(カムカム島 リズム音楽・研究所)

「子どもの事故は防止できる」

山中龍宏先生(緑園こどもクリニック)

「ちょっと気になる子どもたち」

永沢佳純先生(千葉県リハビリテーションセンター小児科)

<発達障害の子との接し方>

他 企画中

☆今年海の日ではなく、土曜日の午後と日曜日の一日半の研修会となります。例年より一日短い開催ですが、その分凝縮した内容の濃い大会にしていきたいと思っております。

☆平成21年3月1日より事前登録および演題募集を行いません。

☆ディズニーランドのある千葉県へ！みなさま ふるって御参加ください。

☆ホームページは、<https://apollon.nta.co.jp/byoujichoiku19/index.html> 病児保育協議会のホームページからも入れます。

☆ホームページ最上段の子ども達の絵は、アクセスするたびに変わります。とても楽しいですよ！ぜひご覧下さい。

全国病児保育協議会新役員

名誉会長	保坂 智子	大阪府	枚方病児保育室(香里)
顧問	帆足 英一	東京都	ほあし子どものこころクリニック
会長	木野 稔	大阪府	中野こども病院 病児保育室きしゃぼっぼ
副会長	池田 奈緒子	神奈川県	エンゼル多摩
	稲見 誠	東京都	いなみ小児科 病児保育室ハグルーム
	原木 真名	千葉県	まなこどもクリニック ポピンズルーム
監事	二宮 剛美	三重県	二宮病院 四日市市病児保育室カンガルーム
	宮田 章子	東京都	みやた小児科 ぼけっと病児保育室
常任協議員	青木 佳之	岡山県	青木内科小児科医院内 山陽ちびっこ療育園
	池田 奈緒子	神奈川県	エンゼル多摩
	稲見 誠	東京都	いなみ小児科 病児保育室ハグルーム
	神原 雪子	大阪府	八尾徳洲会総合病院小児科
	木野 稔	大阪府	中野こども病院 病児保育室きしゃぼっぼ
	杉本 照子	大阪府	望之門保育園内 病気あけ保育室のんたんルーム
	遠山 法子	神奈川県	睦町保育園 病後児保育室みもぞ
	羽根 靖之	三重県	医療法人童心会 よいこ病児保育室
	原木 真名	千葉県	まなこどもクリニック ポピンズルーム
	深谷 憲一	福井県	医療法人深慈会 ひかり病児保育園
	福富 悌	岐阜県	福富医院
	藤本 保	大分県	大分こども病院 キッズケアールーム
	前田 敏子	愛知県	コスモスこどもクリニック なずな病児保育室
	松本 一郎	福岡県	松本小児科医院 早良部病児デイケアールームエンゼルさわら
	松本 良文	京都府	宇治病院 乳幼児健康支援デイサービスセンター
	南 武嗣	鹿児島県	みなみクリニック 病児保育室ダーク・ヘム
委嘱協議員・ 委嘱常任協議員	赤平 幸子	青森県	城東こどもクリニック 病児保育室ことりの森
	佐藤 里美	千葉県	さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ
	庄司 順一	東京都	青山学院大学文学部教育学科
	野原 八千代	千葉県	聖徳大学短期大学部保育科
	平田 ルリ子	福岡県	清心乳児園 子育て支援センター キッズランド
	藤本 文孝	大阪府	株式会社関西共同印刷所
	帆足 暁子	東京都	ほあし子どものこころクリニック
運営委員長	木野 稔	大阪府	中野こども病院 病児保育室きしゃぼっぼ
調査研究委員長	池田 奈緒子	神奈川県	エンゼル多摩
研修委員長	南 武嗣	鹿児島県	みなみクリニック 病児保育室ダーク・ヘム
広報委員長	神原 雪子	大阪府	八尾徳洲会総合病院小児科

<あいうえお順、敬称は省略>

好評販売中です

「必携 新病児保育マニュアル」

- B5版 378頁
- 価格 1冊 会員3000円 (送料・税込み)
- 非会員4000円 (送料・税込み)

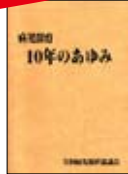


病児保育に関する事がすべて網羅されたバイブル的マニュアル本です。一人に1冊持っていたきたい必読書です。

「病児保育10年のあゆみ」

- B5版 104頁
- 価格は 1冊1600円 (送料・税込み)

残部少数



全国病児保育協議会設立10周年を記念して発行され、設立当初からの歴史を網羅しました。

※ご購入は、全国病児保育協議会のホームページより申込書をダウンロードしてFAXにて全国病児保育協議会事務局までお申し込み下さい。

通信欄

会員の皆さまからのお便り・質問等をFAXやメールでお送りください。直接回答させていただいたり、ニュース等に掲載させていただきます。

送付先：FAX 06-6442-5788

E-mail fumifumi1@cronos.ocn.ne.jp 広報の藤本まで。

全国病児保育協議会新規加入の施設

433 ◆病後児保育室 「くれよん」

理事長 久保 寛倫

〒651-2277

兵庫県神戸市西区美賀多台 3-13-8

TEL：078-961-3333 FAX：078-961-3372

434 ◆医療法人 巻石堂病院 病後児室

医師 山崎 容子

〒277-0005

千葉県柏市柏 3-10-28

TEL：04-7166-7374 FAX：04-7162-6622

435 ◆グリム病後児保育室

施設長 緒方 利光

〒860-0072

熊本県熊本市花園 5-24-89

TEL：096-326-5411 FAX：096-326-5411

436 ◆社会福祉法人 博有会 たけのこ保育園

園長 尾見 純子

〒300-4542

茨城県筑西市吉田 653-1

TEL：0296-52-7788 FAX：0296-52-7788

437 ◆ゆたか保育園

園長 島田 洋子

〒372-0842

群馬県伊勢崎市馬見塚町 1196-1

TEL：0270-32-3691 FAX：0270-20-3315

438 ◆社会福祉法人 朝霞どろんこ保育園

園長 大日方 亮子

〒351-0033

埼玉県朝霞市大字浜崎 69-1

TEL：048-474-6137 FAX：048-474-6130

これ以降の加盟施設は次号で

「施設紹介コーナー」「東西南北支部便り」を連載中！加盟施設のみなさん原稿をどしどし送ってください。また、各施設で特に取り組んでいることや楽しい出来事などがあれば、紹介させていただきます。原稿をお待ちしています。

<協議会ニュース 編集事務局>

〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5

(株)関西共同印刷所内 藤本 文孝 宛

TEL.06-6453-3675 FAX.06-6442-5788

E-mail fumifumi1@cronos.ocn.ne.jp

会員専用掲示板利用について

協議会ホームページで会員専用掲示板を公開しています。これまでも多数の方が意見交換等で活用して頂きました。今回さらに多くの会員の皆様に会員専用掲示板を活用して頂くために、ID・パスワードをオープンパスワードとして公開します。多くの会員の皆様のアクセスをお待ちしています。なお、協議会の主旨以外の利用を防ぐためにも会員外の方にID・パスワードを公表しないようお願いします。ID・パスワードは、定期的に変更しますのでご注意ください。

ID：「by0uj1」ピーワイゼロユー・ジェイチ

パスワード：「byj642hik531」

全国病児保育協議会事務局

〒535-0022 住所：大阪市旭区新森 4-13-17 中野こども病院気付

担当：藪田・堀込 電話：06-6952-4778 FAX：06-6954-8621